

インフルエンザは **予防接種** で対策

～流行前に早めの予防接種が有効です～

毎年秋冬に1,000万人以上がかかると言われているインフルエンザ。最近ではインフルエンザの流行が例年より早まる傾向が見られます。

予防接種を受けると、インフルエンザの発病を予防することや、発病後の重症化や死亡を予防することに関しては、一定の効果があるとされています。ワクチンの効果が持続する期間は限定的なので、毎年受けましょう。

*感染を100%予防するものではありません。

こんな人にとくにすすめ

高齢者



肺炎の原因となる肺炎球菌のワクチンも併せて接種すると安心です。

持病のある方



慢性呼吸器疾患、
心血管系疾患、
腎疾患、
肝疾患、
血液疾患、
糖尿病 など



子どもの

かぜ・インフルエンザには

要注意

市販の薬を服用するとき

15歳未満の子どもが発熱して市販の解熱剤を服用するときは、アセトアミノフェン系の「小児用」と明記されたものを使用してください。大人用を服用すると、急性脳炎をおこす危険があります。薬局等では、子どもの年齢と症状を薬剤師に伝えて相談しましょう。



インフルエンザにかかったとき

突然の高熱(38℃以上)、全身倦怠感、筋肉痛や関節痛などの症状が見られたときは、インフルエンザの可能性があるので、できるだけ早く医療機関を受診しましょう。抗インフルエンザウイルス薬は、発症後48時間以内の使用が効果的です。感染力が強いので、周りの人にうつさないよう、マスクをして行きましょう。インフルエンザを発症した場合の学校の出席停止期間は、発症した後(発熱の翌日を1日目として)5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまでとなっています。



詳しくは厚生労働省のインフルエンザ対策ページをご覧ください。
<https://www.mhlw.go.jp/>

